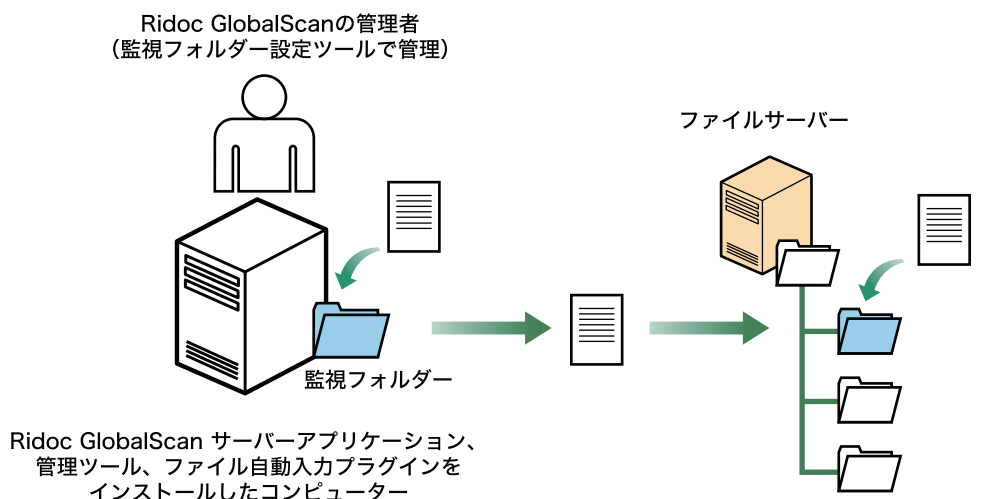


# Ridoc GlobalScan ファイル自動入力プラグイン

## 管理者ガイド

Ridoc GlobalScan ファイル自動入力プラグインは、Ridoc Global Scan (RGS) サーバー上の指定したフォルダーを監視し、ファイルを取り込むプラグインです。監視フォルダーにファイルが格納されると自動的に取り込み、あらかじめ設定した配信フローを使用して、ファイルサーバーへのフォルダー配信やメール送信などを行うことができます。フォルダーの監視設定は監視フォルダー設定ツールを使って行います。監視フォルダーのほか、取り込んだファイルを保存する際の保存フォルダー、取り込みエラーが発生した際にファイルを格納する退避フォルダーなどを設定します。



BWL001

図：ファイル自動入力プラグインのワークフロー

### ↓ 補足

- この使用説明書は、ファイル自動入力プラグインを使用するための設定手順について説明しています。管理者設定、サービス / フィルター設定などについての詳細は、RGS 管理者ガイドを参照してください。

## はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載してあります。ご使用前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったときに、すぐに利用できるように保管してください。

株式会社リコー

## おことわり

- 大切な文書やデータは必ずコピーまたはバックアップしてください。お客様が操作をミスしたり本製品に異常が生じた場合、文書やデータが消失することがあります。また、コンピューターウイルス、ワーム、その他の有害なソフトウェア等に対しては、お客様の責任で必ず予防措置を講じてください。
- お客様が本製品を使用して作成した文書やデータに関し、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
- 本製品の故障による損害、文書やデータの消失による損害、その他本製品の使用により生じた損害について、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
- 機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の一部、または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。
- 本製品および使用説明書を運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
- 動作中に、ディスクの抜き差しをしないでください。

## ご使用の前に

### ◆ 略称 / 呼称

本書では簡潔化のため以下の略称 / 呼称が使われています。

製品 / 名称	略称 / 呼称
Ridoc GlobalScan	RGS または rgs
Ridoc GlobalScan ファイル自動入力プラグイン	ファイル自動入力プラグイン
複合機	MFP または機器

### ◆ 動作環境

- ファイル自動入力プラグインが動作するには以下の RGS がインストールされている RGS サーバーが必要です。
  - Ridoc GlobalScan Version1.3 以降

### ◆ 設定可能な監視フォルダーの条件

- RGS サーバーに存在するフォルダーである。
- GlobalScan サービスを起動したユーザーに、読み取り・書き込み・削除のすべての権限が与えられている。
- フォルダー指定する際のパスの長さが 128 文字以内である。

#### ↓ 補足

- ネットワークフォルダーは指定できません。
- 直下に既にファイルが存在しているフォルダーは指定できません。
- 直下にフォルダーのみが存在する場合は指定可能です。
- フォルダー名の末尾に「.tmp」が付くフォルダーは指定できません。
- フォルダー名の末尾に「.」が付くフォルダーは指定できません。
- 禁則文字「~ " # % & \* : < > ? { | }」が含まれるパスは指定できません。
- 他の監視設定で使用している監視フォルダーは指定できません。
- 同一もしくは他の監視設定で使用している保存フォルダー・退避フォルダーは指定できません。
- 隠しフォルダーも指定可能です。

### ◆ 設定可能な保存フォルダー・退避フォルダーの条件

- RGS サーバーに存在するフォルダーである。
- GlobalScan サービスを起動したユーザーに、読み取り・書き込み・削除のすべての権限が与えられている。
- フォルダー指定する際のパスの長さが 128 文字以内である。

#### ↓ 補足

- ネットワークフォルダーは指定できません。
- フォルダー名の末尾に「.tmp」が付くフォルダーは指定できません。
- フォルダー名の末尾に「.」が付くフォルダーは指定できません。
- 禁則文字「~ " # % & \* : < > ? { | }」が含まれるパスは指定できません。
- 同一もしくは他の監視設定で使用している監視フォルダーは指定できません。
- 隠しフォルダーも指定可能です。

### ◆ 取り込み可能なファイルの条件

- ファイルの拡張子が次のいずれかである。  
bmp、gif、jpeg、jpg、pdf、png、tif、tiff  
拡張子が上記以外のファイルは取り込まれずに退避フォルダーに格納されます。
- ファイル名の長さは半角 74 文字以内である。  
ファイル名が半角 74 文字を超える長さのファイルは取り込まれずに退避フォルダーに格納されます。
- ファイルサイズの上限は 200MB である。  
ファイルサイズが 200MB を超えるファイルは取り込まれずに退避フォルダーに格納されます。
- GlobalScan サービスを起動したユーザーに、読み取り・書き込み・削除のすべての権限が与えられている。

#### ↓ 補足

- 隠しファイルも取り込み可能です。
- 読み取り専用のファイルは取り込まれません。
- 指定した監視フォルダーのサブフォルダーに存在するファイルは取り込まれません。
- 配信先との通信状態によっては、ファイルの配信がエラーになることがあります。

## ◆ 監視スケジュール

RGS を起動すると、監視フォルダー設定ツールで設定した監視フォルダーの巡回が開始されます。複数の監視設定が設定されているときは、リストの上部から順番に巡回します。監視フォルダー直下にファイルが存在する場合は、1 ファイルずつ 1 ジョブとして取り込みを行います。取り込まれたファイルは、監視フォルダー設定ツールの配信設定で選択したプロジェクトの設定にしたがって配信されます。

### ↓ 補足

- ・監視フォルダーに複数のファイルが存在するときは、更新日時の古いファイルから順に取り込まれます。
- ・ファイルの取り込み開始後に監視フォルダーに新しいファイルが追加されたときは、次の巡回の際に取り込まれます。
- ・監視フォルダー設定ツールで設定を変更したときは、監視中のフォルダーのファイル取り込みが完了した時点で変更内容が反映されます。

## ◆ 設定可能なプロジェクト

取り込んだファイルの配信設定にはワンタッチスキャンプロジェクトのみ設定できます。

### ↓ 補足

- ・認証が設定されているプロジェクトは配信設定に指定できません。
- ・監視フォルダー設定ツールで配信設定に設定しているプロファイル、グループ、プロジェクトを RGS の管理ツールで削除することはできません。
- ・監視フォルダー設定ツールで配信設定に設定しているプロジェクトを認証ありのプロジェクトに変更することはできません。
- ・監視フォルダー設定ツールで配信設定に設定しているプロジェクトのワンタッチスキャン設定を解除することはできません。

## ◆ 注意事項

- ・保存フォルダー、退避フォルダーへファイルが移動されるとき、移動先に同名のファイル名が存在した場合はファイル名にサフィックスが追加されます。  
例：xxxxx(1).tif、xxxxx(2).tif  
サフィックスの最大値は 9999 で、それを超えた場合はエラーとなります。
- ・RGS でシステムの初期化を実行すると、監視フォルダー設定ツールの設定内容も初期化されます。
- ・ファイルの取り込み時に、監視フォルダー直下に “HF.tmp” という名称のフォルダーが作成され、取り込み処理終了後も削除されずに残ります。
- ・退避フォルダー、保存フォルダーに移動されたファイルの削除機能はありません。必要に応じてファイルの削除を行ってください。
- ・監視フォルダー設定ツールの設定内容は、RGS のバックアップ・リストア対象になります。設定内容をリストアする時は、ファイル自動入力プラグインが正しくインストールされた状態で行ってください。
- ・ファイル取り込み時にファイルがシステムファイルであるかどうかの確認は行われません。システムファイルが置かれる可能性があるフォルダーを指定しないように注意してください。

# ファイル自動入力プラグインをインストールする

## ↓ 補足

- ファイル自動入力プラグインは RGS がインストールされているサーバーにインストールしてください。

## 手順 1：インストールの前に

ビルトイン管理者アカウント、または管理者権限で作成されたアカウントで RGS の管理ツールにログインしてください。

- Web ブラウザを起動します。
- 以下の URL を入力し、RGS の管理ツールにアクセスします。  
http://RGS がインストールされているサーバーの IP アドレス:ポート番号/仮想ディレクトリー名/  
(デフォルト: **http://IP アドレス :8080/gsnx/**)

## ↓ 補足

- IP アドレス、ポート番号、仮想ディレクトリー名は RGS のインストール環境および設定内容によって異なります。
- [Enter] キーを押すか、[移動] をクリックします。  
管理ツールログインページが表示されます。



図：管理ツールログインページ

- パスワードを入力します。
- 必要に応じて言語を選択します。
- [ログイン] をクリックします。  
管理ツールホーム画面が表示されます。
- [メンテナンス設定] をクリックします。



図：管理ツールホーム画面

- [システム制御] をクリックします。
- [配信サービスの状態を切り替える] をクリックし、「現在の配信サービス状態」を「配信停止中」に切り替えます。

## ↓ 補足

- 「現在の配信サービス状態」にある [更新] をクリックすると、最新の配信サービス状態に更新されます。

- [はい] をクリックします。

- [ログアウト] をクリックし、管理ツールからログアウトします。

## 手順 2：インストールする

- コンピュータで動作中のすべてのアプリケーションを終了します。
- GSLaunch.exe** をダブルクリックします。
- [ファイル自動入力プラグイン] をクリックします。  
インストール開始画面が表示されます。
- [次へ] をクリックします。
- ソフトウェア使用許諾契約書を確認して [使用許諾契約の全条項に同意します] を選択し、[次へ] をクリックします。
- シリアル番号を入力し、[次へ] をクリックします。
- [次へ] をクリックします。  
ファイル自動入力プラグインのインストールが開始されます。

## ↓ 補足

- インストール先は RGS がインストールされているフォルダーが指定されます。
- [完了] をクリックします。  
コンピュータの再起動が必要な場合は確認のメッセージが表示されます。[OK] をクリックして再起動してください。

## アンインストールするとき

ファイル自動入力プラグインをアンインストールするときは、Windows メニューの [プログラムの追加と削除] からファイル自動入力プラグインのアンインストールを実行してください。

## 手順 3：配信処理を再開する

- RGS の管理ツールへログインします。

## 目 参照

- ログイン方法については、P.4 「手順 1：インストールの前に」を参照してください。
- [メンテナンス設定] をクリックします。
  - [システム制御] をクリックします。
  - [配信サービスの状態を切り替える] をクリックし、「現在の配信サービス状態」を「配信実行中」に切り替えます。

## ↓ 補足

- 「現在の配信サービス状態」にある [更新] をクリックすると、最新の配信サービス状態に更新されます。
- [ログアウト] をクリックし、管理ツールからログアウトします。

## 監視フォルダーを設定する

監視フォルダー設定ツールを使用して、監視するフォルダーに関する設定を行います。

監視する1つのフォルダーに対して1つの設定内容を登録します。登録された設定情報はメイン画面にリスト形式で一覧表示されます。

### ↓ 補足

- ・ 監視フォルダー設定ツールを起動するには RGS の管理者権限が必要です。
- ・ 監視フォルダーの登録数は 50 以下にすることを推奨します。

## 設定手順

1. Windows メニューの [ スタート ] ボタンをクリックし、[ すべてのプログラム ] または [ プログラム ] から [ RICOH Ridoc GlobalScan ] をポイントして [ 監視フォルダー設定ツール ] をクリックします。
2. メイン画面で [ 追加 ] をクリックします。
3. 監視設定の追加 ( 編集 ) 画面でフォルダーの監視設定項目を設定 ( 編集 ) します。

## メイン画面



### A. 追加 / 編集 / 削除

追加：新規の監視設定を登録します。

編集：登録済みの監視設定の内容を修正 / 変更します。

削除：登録済みの監視設定を削除します。

### B. 監視設定管理テーブル

登録済みの管理設定の一覧が表示されます。

監視設定を編集または削除したい時は、一覧から目的の設定を選択し、[ 編集 ] または [ 削除 ] をクリックします。

一覧には以下の設定内容が表示されます。

- ・ 表示名
- ・ 監視フォルダー (パス)
- ・ プロジェクト名

### ↓ 補足

- ・ 列のヘッダをクリックすると列をソートすることができます。



図：監視設定の追加画面

↓ 補足

- 画面に\*マークがついている項目は設定が必須です。

## A. 表示名

監視設定の表示名を入力します。

↓ 補足

- 表示名は 128 文字まで入力可能です。

## B. 監視設定 < 監視フォルダー >

監視するフォルダーのパスを入力します。フォルダーの区切り文字として “¥”、“/” が使用できます。

目 参照

- 設定可能な監視フォルダーの条件については、P.2「設定可能な監視フォルダーの条件」を参照してください。

## C. 配信設定

### < プロファイル名 >

取り込んだファイルの配信設定に使用するプロジェクトを含むプロファイルを選択します。  
RGS の管理ツールで設定されているプロファイルが選択肢として表示されます。

### < プロジェクト名 >

取り込んだファイルの配信設定に使用するプロジェクトを選択します。  
RGS の管理ツールで設定されているプロジェクトが選択肢として表示されます。

### < タイプ >

取り込むファイルのジョブタイプを選択します。  
スキャン・ファクスが選択肢として表示されます。

## D. エラー時のファイルの退避先 < 退避フォルダー >

ファイルの取り込みエラーが発生したときに、エラーとなったファイルを退避するフォルダーのパスを入力します。  
フォルダーの区切り文字として “¥”、“/” が使用できます。

目 参照

- 設定可能な退避フォルダーの条件については、P.2「設定可能な保存フォルダー・退避フォルダーの条件」を参照してください。

## E. 取り込み済みファイルの保存 < 保存フォルダー >

取り込んだファイルの配信が終了したときに、取り込み済みファイルを保存するかしないかを設定します。  
保存するときは、「取り込み済みファイルを保存する」にチェックマークを付け、保存するフォルダーのパスを入力します。フォルダーの区切り文字として “¥”、“/” が使用できます。  
「取り込み済みファイルを保存する」にチェックマークを付けないときは、ファイルは保存されずに消去されます。

目 参照

- 設定可能な保存フォルダーの条件については、P.2「設定可能な保存フォルダー・退避フォルダーの条件」を参照してください。

## ファイルに設定される文書情報

ファイル自動入力プラグインで取り込まれ配信されるファイルには書誌情報が設定されます。ここではファイル自動入力プラグイン独自の文書情報について説明します。その他の文書情報については、RGS 管理者ガイドを参照してください。

項目名 (ID)	内容
sourceTimeZone	ファイル自動入力プラグインでは常に空になります。
contentType	ファイル自動入力プラグインでは常に空になります。
application	ジョブキューの種類 ファイル自動入力プラグインでは “scan” または “fax” が設定されます。 ジョブログのタイプ列には設定した “scan” または “fax” が表示されます。
userName	ファイル自動入力プラグインでは常に空になります。
docType	ファイルの拡張子
device_name	監視フォルダーの表示名が設定されます。 ジョブログの機器名欄には device_name [machineld] と表示されます。 機器入力の場合は、機器名が設定されます。
machineld	ファイル自動入力プラグインでは常に空になります。